

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191400647), 法人名 (社会福祉法人 心侑会), 事業所名 (グループホームあい), 所在地 (北海道函館市昭和3丁目29番47号), 自己評価作成日 (令和4年1月13日), 評価結果市町村受理日 (令和4年7月21日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内で支援できることに関しては限界がある為、ご家族様や各関係者と連絡を取り合い、ご利用者様の支援にあたっては、お誕生日やイベント日には、楽しみ事を企画し、ご利用者様に喜んで頂けるように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191400647-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年7月6日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR五稜郭と桔梗の中間にあり、近隣には商業施設が多く交通も至便な立地である。施設は居室・居間・介護設備の利便性は良く、機能的に配置されている。職員は、コロナ禍で外出行事が難しい中、介護理念である「心豊かで温かいサービスの提供」を念頭に、一人ひとりの持てる力を大切に、家事仕事や趣味など、出来る限り今までの生活が継続できるよう努めている。現在も地域交流や外出行事等に制限はあるが、近隣への散策、敷地での外気浴や行事食の充実等、生活全般が楽しみある時となるよう職員間で話し合いを重ね、実践している。また、家族の繋がりが支援についても、ホーム便りの他、電話の頻度を上げ、面会方法の充実も職員間で検討しながら、生活状況や受診結果、食の楽しみ等、多様な情報発信に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は、出来ている職員と出来ていない職員がいる。	事業所理念を目につく場所に掲示し、日常的に共有している。主に会議や研修の場で理念への理解を深めており、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もあり、今現在は家族、医療関係者、業者以外の地域住民との交流は控えさせて頂いている状態です。	現在は相互に往来を自粛しているが、通例では地域での介護相談窓口として相談に応じたり、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流が出来ていない為、ご家族様の介護に対するお悩み等にお答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、延期、中止となっていたが、新管理者体制になってからは、運営推進会議を書面で開催している。	通例では、家族、町内会、包括から参加を得ながら、定例で開催している。現在は書面開催となっているが、議題には運営状況やヒヤリハット・事故等を挙げ、後日、委員から意見を求め、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や行政対応が必要と思われることに関して報告し、対応して頂いている。	行政の窓口、包括支援センターからは、定例の運営状況報告の他、メール・電話で、随時助言・アドバイスを受けており、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針に則り、身体拘束は行っておりません。	身体拘束適正化委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。利用者の現状の確認と定期的に研修の機会を設け、禁止となる具体的な行為等について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、利用者様に対する態度や言動を職員同士で確認している。万が一、虐待と思われる行動や言動があった場合は、管理者が注意し、法人に報告を行い、資料として纏めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対して、成年後見人制度などを勉強する機会を設けていなかった為、今後設けるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ご家族様と一緒に読み進め、都度疑問点や不安なことをお聞きして対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご利用者様の相談窓口を設けていて、意見や相談事があれば都度記録に残し、開示依頼があれば閲覧できるようにしている。	通例では、主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、運営やケアプランに反映している。現在はお便りの他、相談窓口の設置やガラス越しでの面会等、情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護職員やその他の職員からの相談があれば、都度面談し対応している。	日々の引継ぎや会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現理事長は、職員の相談事や評価に関しては自ら現地へ赴いてお話を聞いて下さっている。賃金に関しても、評価と共に上がることを職員に周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、法人内外関係なく、学べる環境を作ってお下されていて、個々の就業形態に合わせて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設交流や連絡は取っているが、外部との施設に関しては、入居者の受け入れ時にしか関係を持っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に、ご本人様のお悩みや不安をお聞きし、プランを作成している。サービス利用開始後もご本人様に定期的にお話をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に、ご家族様のお悩みや不安をお聞きし対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プランを作成する前に、しっかりご本人様にアセスメントし、ご家族様にも面談を行っている。ご本人様やご家族様の望まれていることをプランに入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職としてのルールを守りつつ、ご利用者様を本当の家族として共に生活できるように日々意識している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様のお悩みや施設で対応できない内容に関しても共有させて頂き、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様のご友人などに連絡したいとの要望があれば、施設内の電話をお貸しし連絡を取っている。また、面会も状況に応じて許可している。	通例では、家族、知人の来訪時には居室などでゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。現在は電話の取り次ぎやお便り等で工夫しながら、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が悪くならない様に、日々職員が間に入り、生活しやすい環境を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様を通じて必要であればご相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で、ご利用者様の意向を最大限活かせる様に支援している。	日々の生活に寄り添いながら、思いや意向を理解し、職員間で共有して、個々の希望に沿った生活となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の前に過去の生活歴や趣味趣向等をしっかりアセスメントし、過ごしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況を尊重し、施設側からのイベント案内や日々の体操等を強要せず、個々の判断で参加して頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様や各関係者の意見を踏まえて、より良い生活となるように介護計画を作成している。	利用者本位を基本に、家族、医療機関、職員の意見を反映し、計画作成担当者が原案を作り、職員間でモニタリング結果と合わせて検討して、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等に関しては、ケース記録に記載し、日々職員同士で情報共有を行い、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たに生まれるニーズに対し、施設で出来る最大限の支援を考え、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の要望に合った地域資源を調べ把握し、活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医だけではなく、その時の症状や状態に合わせて医療機関を受診している。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、医療機関との協力体制があり、受診内容については記録を基に、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活されているご利用者様の状態変化があれば、提携している訪問看護ステーションアイリーへ連絡し、看護師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、入退院前後の情報共有をしっかりと行い、ご利用者様が安心して治療できるように日々努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の状態に合わせて、ご家族様や各関係者と連絡を取り、方針を共有し共に支援している。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの研修は行っていなかった為、今後は定期的に行っていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や自然災害に備えてのマニュアルを作成し情報共有を行っている。	火災・自然災害を想定した避難訓練を定例で実施している。地域町内会や母体法人の特養と協力体制の確認を行っている。冬季を想定した暖房器具も整備して、不意の災害に備えている。	現在、法人として取り組んでいるBCP(事業継続計画)作成に併せ、家族、関係者への避難場所の周知等、進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格否定や言葉の虐待にならない様に、日々職員同士で注意しあい対応している。	職員は主に接遇について、具体例を挙げながら日々注意し、相互にチェックすることで、尊厳ある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人様の要望通りに支援できるように努めているが、施設サービスの範囲を超えることに関してはご家族様の力をお借りし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者同士でトラブルになるようなこと以外は、個々のペースで日々生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、不潔な状態で過ごすことが無いように支援を行っている。ヘアカット等も定期的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事に関しては、盛り付けやお皿拭きなどをお手伝い頂き、過ごして頂いている。	利用者の希望を取り入れ、季節感を大切に食事をお心掛けている。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分に関しては、日々チェック表に記録し、異常があれば医療機関と相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは個々の状態に合わせて、職員が支援している。また、異常があれば歯科医に相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄機能を医療機関と相談しながら、支援を行っている。	医療機関から助言を得ながら、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、自然な排泄となるように支援している。パッド類も個々に合った製品を選択、使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は便秘になりやすいので、食事内容や医療機関と連携し、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設側の人員不足により、入浴の時間帯や曜日を個々に決めて頂くのは現状難しい。しかし最低でも週に2回は入浴できるように努めている。	週2回の入浴を支援している。拒否がある人には時間・日程を変更し、本人の状態や希望に応じて、柔軟な対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、休息を取って頂き、夜間に関しては安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から内服薬などを説明して頂き、納得の上で服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を手伝って頂いたり、個々の趣味嗜好を出来る時間を取り日々過ごして頂いてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルスの影響で不要な外出は控えて頂いている。	全体での外出行事は自粛しているが、個別に声掛けし、短時間でのドライブや周辺の散策をしている。日常生活に運動を取り入れる等、職員は利用者の気分転換や心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個々のお金の紛失を防止するため、お小遣い制ではなく、立替金制を導入している。また、高額なお買い物になる場合は、ご家族様と相談し、購入を検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、事務所内の電話をお貸ししたり、手紙を出したい場合は施設管理者が預かり、郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部に関しては、出来る限り過ごしやすい環境作りの為、空調管理や照明管理、壁などに季節ごとに絵などを飾っている。	リビングでは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気、音や光に配慮している。利用者と共に作成した作品を掲示する等、温かみある雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にお過ごしてできるように、フロア内にはソファや椅子などを設置し、ご自由に使って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様のゆかりのある家具や小物などを居室内に設置している。	居室には馴染みの家具や備品が自由に持ち込まれ、家族写真や手紙などを飾り、本人にとって居心地よい部屋となるよう努めている。状況に応じた環境作りも、本人、家族と相談して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のサービスに合わせ、自立した生活が送れるように、日々職員が見守っている。		